

其後六月十八日閣議ニ於テ第二次條約締結ニ對シ大要左ノ如キ最高方針ノ決定ヲミタリ
(イ) 第一次條約ノ實績ニ徴シ且滿洲國ノ制度施設ノ進捗等ヲ稽ヘ行政警察權ト領事裁判權ヲ同時ニ撤
廢シ

(ロ) 條約實施期日ヲ十二月一日トシテ準備ヲナス

(ハ) 殘務整理等過渡的事項及行政上、司法上ノ共助、施設、職員ノ處理等ニ關シテハ適當措置シ神
社、兵事、教育ニ關シテハ一定ノ範圍内ニ於テ依然日本側之カ行政ヲ行フ

而シテ滿洲國側ニ於テハ銳意重要法規ノ制定、行刑施設ノ整備等ニ努メタル結果我方ノ期待ニ背カサ
ル程度ノ準備ヲ完了セルヲ以テ愈々豫定通り十二月一日ヲ期シ治外法權及附屬地行政權ヲ全面的ニ撤
廢又ハ移讓スルコトトナリ現地案ヲ基礎トシテ條約案ヲ作成九月十五日對滿事務局參事官會議ヲ
經テ九月十七日右案ノ閣議決定ヲ見タリ據テ滿洲國ニ諮リタル處同國ハ十月七日ノ國務院會議ニ於テ
我方原案ヲ承認セルヲ以テ樞密院ノ審査(審査委員會ハ十月八日及十月二十日ノ二回本會議ハ十一月
一日)ヲ經テ十一月五日新京ニ於テ我カ特命全權大使植田謙吉、滿洲國國務總理張景惠間ニ正式調印
ヲ了セリ

第二章 日滿經濟共同委員會關係

第一節 滿側委員ノ變更

昭和十二年七月實施セラレタル滿洲國政治機構ノ變革ニ依リ滿側委員ト定メラレタル外交部大臣、實
業部大臣、財政部大臣及國務院總務廳長(日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定附屬日滿了解事項第
一ノ規定)ハ何レモ存在セサルコトナリタル爲當該規定ノ解釋及適用問題ニ關シ疑義ヲ生スルニ至
レリ依テ日滿双方協議ノ上前記規定ノ趣旨ニ鑑ミ實質的解釋ヲ下スコト妥當ナリトシ「實業部大臣ハ
産業部大臣ヲ財政部大臣ハ經濟部大臣ヲ國務院總務廳長ハ總務長官ヲ外交部大臣ハ外務局長官ヲ夫々
指稱スルモノト解釋シ之ヲ委員ニ任命スルコト」ニ双方意見ノ一致ヲ見右趣ノ交換公文ヲ了セリ

第二節 委員會機構改革問題

共同委員會現在ノ運用方法ヲ見ルニ委員會カ單ニ形式的諮問法案ニ贊意ヲ表スルニ過キササル狀況ナル
處更ニ昭和十一年末「重要産業統制法」ノ制定ヲ見タル爲今後滿洲國側ニ於テ右統制法ノ運用如何ニヨ
リテハ實際上日滿經濟共同委員會ノ機能ヲ甚シク微弱ナラシムル惧アリ他面滿洲國ニ於ケル國防的產
業計畫ノ進行ニ伴ヒ内地經濟ト重大ナル相關乃至摩擦關係ヲ生ツヘク之カ措置振リニハ益々慎重ヲ期

ナサルヘカラサル事情ニアリ依テ本委員會ノ機構並ニ運用ニ付例ヘハ委員會ヲシテ原案ノ立案ニ付或
ル程度參與セシメ進ンテ成案ノ施行ヲモ監視セシメ或ハ常任幹事ヲ任命シテ此種任務ヲ遂行セシムル
等必要ナル改正ヲモ加ヘ或ハ經濟共同委員會ニ關スル條約ノ附屬了解事項第三ハ事實死文トナリ居ル
ヲ改メテ之ヲ活用セントスル等ノ意見關係各方面ニアリタルモ未タ具體化スルニ至ラザリキ

七四三

第三節 委員會ノ諮問案件可決狀況

昭和十一年十二月ヨリ同十二年末迄ニ本委員會ノ議決ヲ經タルモノハ左ノ五件ナリ

- 一、重要産業統制法ニ關スル件（第一回會議）昭和一一、一一、七
 - 二、南滿洲油化工業株式會社設立ニ關スル件（第三回會議）昭和一一、六、二四
 - 三、滿洲鴨綠江水力發電株式會社設立ニ關スル件（第一四回會議）昭和一二、七、二九
 - 四、滿洲國貿易緊急統制法ニ關スル件（第一五回會議）昭和一二、一一、二九
 - 五、滿洲國重工業確立ニ關スル件（第一六回會議）昭和一二、一一、一〇
- 以上審議可決セラレタル諸件ノ要綱左ノ通

第一款 重要産業統制法

第一、立法ノ主旨

從來滿洲ニ於ケル重要産業ノ統制ハ昭和九年三月閣議決定ノ「日滿經濟統制方策要綱」ノ趣旨ニヨリ
關東軍及大使館ノ指導ニヨリ實施セラレ來リタルモ其目的、範圍及程度等ニ關シ世上誤解ヲ抱クモノ
尠カラズ爲メニ一般企業活動ヲ阻害スル懸念無キニ非サル實情ナリシヲ以テ法規ノ明文ヲ以テ統制ノ
態様ヲ周知セシメ企業活動ニ比較的明確ナル指標ヲ與ヘ以テ日滿經濟ノ合理的融合發展ニ資セシメン
トスルニアリ

第二、法案制度要綱

- 一、本法ノ適用ヲ受クヘキ産業ノ種類ハ勅令ニ依リ之ヲ指定ス
指定重要産業ヲ營マントスル者ハ主管部大臣ノ許可ヲ受ケシム但シ業種ニ依リテハ一定ノ程度以上
ノ規模ヲ有スルモノニ限ル
- 二、重要産業ヲ營ム者ハ事業年度毎ニ事業計畫書及事業報告書ヲ主管部大臣ニ届出ツルコトヲ要ス
- 三、主管部大臣ハ重要産業ヲ營ム者ニ對シ生産又ハ販賣ニ關シ公益上又ハ統制上必要ナル命令ヲ發ス
ルコトヲ得
- 四、主管部大臣特ニ必要ト認ムルトキハ重要産業ヲ營ム者ヲシテ其業務若ハ財産ノ狀況ヲ報告セシメ
又ハ官吏ヲシテ之ヲ検査セシムルコトヲ得
- 五、重要産業ヲ營ム者左ノ場合ニ於テハ主管部大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

七四三

七四四

- 1、生産制限又ハ操業短縮ニ關スル協定、生産分野ニ關スル協定註文割當ニ關スル協定、販賣價格其他之ニ影響ヲ及ボスヘキ取引條件ニ關スル協定、販路ニ關スル協定、販賣數量ニ關スル協定、共同販賣ニ關スル協定又ハ原料材料ノ購買價格ニ關スル協定ヲ爲サントスルトキ
- 2、製造設備ヲ擴張又ハ變更セントスルトキ
- 3、事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡セントスルトキ
- 4、法人ナル場合ニ於テ解散ヲナサントスルトキ
- 5、重要産業ヲ營ム者左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク之ヲ主管部大臣ニ届出ツルコトヲ要ス
 - 1、事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止シタルトキ
 - 2、法人ナル場合ニ於テ合併ヲナシタルトキ
- 6、重要産業ヲ營ム者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ主管部大臣ノ許可條件ニ反シタルトキ主管部大臣ハ第一條ノ許可ヲ取消スコトヲ得
- 7、重要産業ヲ營ム者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ主管部大臣ノ許可條件ニ反シタルトキ主管部大臣ノ許可ヲ受ケスシテ重要産業ヲ營ミタル者ニ對シテハ相當ノ制裁ヲ課ス
- 8、主管部大臣ノ許可ヲ受ケスシテ重要産業ヲ營ミタル者ニ對シテハ相當ノ制裁ヲ課ス
- 9、本法施行ノ際既ニ主管部大臣ノ許可ヲ受ケ現ニ營業スル者ハ本法ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス
- 10、本法施行ノ際政府ノ許可ナクシテ現ニ營業スル者ハ一定ノ期間内ニ本法ニ依リ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

ヲ要ス

第三、指定産業

兵器製造業、航空機製造業、自動車製造業、液體燃料製造業、鐵、鋼其ノ他ノ金屬精煉業、炭鑛業、毛織物製造業、綿糸紡績業及綿織物製造業、麻、麻製品製造業、製粉業、麥酒製造業、製糖業、煙草製造業、曹達製造業、肥料製造業、「バルブ」製造業、油房業、「セメント」製造業、燐寸製造業

第二款 南滿洲油化工業株式會社

第一、方針

阜新附近ニアル豐富ナル石炭資源ヲ利用シテ「フィッシュヤール」式瓦斯合成法ニ依リ液體事業ヲ經營シ以テ日滿兩國ニ於ケル石油ノ自給特ニ戰時ノ用ニ備フルト共ニ低廉豐富ナル石油ノ供給ヲ計ラントス

第二、要領

- 一、名稱 南滿洲油化工業株式會社
- 二、所在地 阜新
- 三、組織 滿洲國特殊法人
- 四、事業目的
 - 1、「フィッシュヤール」式瓦斯合成法ニヨル「ガンリン」、機械油、白蠟等ノ製造並販賣

2、右ニ附帯スル業務
五、資本金 五千萬圓

但第一回ノ拂込ハ康德四年(昭和十二年)ニ於テ資本金ノ五分ノ一トシ殘餘ハ康德六年末(昭和十四年末)迄ニ全額拂込ヲナスモノトス

内 譯

滿洲國政府

千七百萬圓

三井物産株式會社

千七百萬圓

三井礦山株式會社

南滿洲鐵道株式會社

五百萬圓

滿洲炭礦株式會社

八百萬圓

滿洲石油株式會社

三百萬圓

(帝國燃料株式會社設立ノ曉ニ於テハ右出資額中相當部分ヲ同社ニ肩代リ出資スルモノトス)

六、役員
理事長一、理事五名以内、監事三名以内

七四六

七、事業經營方針

1、差當リ「ガソリン」精製量十萬圓ヲ目途トシ之カ建設、經營ハ原則トシテ三井側ニ行ハシム

2、製品ノ處置

(イ) 滿洲國ハ最低「ガソリン」初年度(康德六年)二萬圓、次年度以降三萬圓ヲ收納ス

其他ノ「ガソリン」ハ日本ニ輸出ス

(ロ) 機械油、白臘ハ原則トシテ滿洲國內ニ於テ處理ス

八、政府ノ監督

本會社重役ノ選任及解任、定款ノ重要ナル變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルモノトス

九、政府ノ保護

1、滿洲國政府ハ本會社ノ製品產出後當分ノ間最低四分ノ配當ヲ可能ナラシムルカ如キ價格ヲ以テ

本「ガソリン」ヲ收納ス

2、日本政府ハ本「ガソリン」ノ日本ニ對スル輸入ニ付關稅ヲ免除ス

3、滿洲國政府ハ本會社カ其事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ許可ヲ受ケ輸入スルト
キハ設立ノ日ヨリ五年間輸入稅ヲ免除ス

七四七

第三款 滿洲鴨綠江水力發電株式會社

七四八

滿洲國五個年計畫ニ依レハ新ニ九十四萬六千「キロワット」ノ發電事業ヲ起シ總電力量合計百四十萬五千「キロワット」トナサントシ其ノ一部トシテ現ニ第二松花江上流ニ十萬「キロワット」ノ發電事業ニ着手シ居レリ一方鴨綠江ノ水力利用ニ付テハ夙ニ朝鮮、滿鐵並滿洲國側ニ於テ調査ヲ進メ居タルカ右調査ニ基キ關係方面協議セル處原來國境河川ニ跨ル兩國共同事業ナルヲ以テ例ヘハ電々會社ノ如ク條約ニ基ク合辦會社ヲ設立スルヲ妥當ト思考セラレタルモ其ノ際ニ於ケル本店ノ所在地ニ付鮮滿間意見ノ一致ヲ見サリシヲ以テ辦法トシテ「朝鮮鴨綠江水力發電株式會社」(普通會社)及「滿洲鴨綠江水力發電株式會社」(特殊會社)ノ形式上獨立セル二會社ヲ設立シ一方「鴨綠江及圖們江發電事業ニ關スル覺書」「朝鮮鴨綠江水力發電株式會社及滿洲鴨綠江水力發電株式會社間ニ於ケル水力發電事業ニ共同經營ニ關スル約定」等ニヨリ兩社ヲ實質上單一不可分ノ會社トラシメタルモノナリ

第一方 針

滿洲産業開發五個年計畫ニ基ク電力開發ノ一部トシテ朝鮮鴨綠江水力發電株式會社ト共同シテ鴨綠江本流及圖們江本流ノ水力ヲ利用シテ低廉豐富ナル電力ヲ供給シ以テ滿洲及朝鮮ニ於ケル産業ノ開發、文化ノ向上ヲ促進スル爲滿洲鴨綠江水力發電株式會社ヲ設立ス

第二要 領

一、名 稱

滿洲鴨綠江水力發電株式會社

二、所 在 地

本店ヲ新京ニ置キ京城其他必要ナル地ニ支店若ハ營業所ヲ置ク

三、組 織

滿洲國特殊法人

四、事 業 目 的

本會社ハ朝鮮鴨綠江水力發電株式會社ト共同シテ左ノ業務ヲ行フ

(一) 鴨綠江本流及圖們江本流ノ水力ヲ利用スル發電事業ノ開發並經營

(二) 實業部大臣ノ認可ヲ受ケタル前項附帶業務

五、資 本 金

五千萬圓(第一回拂込四分ノ一)

滿洲國政府 二千五百萬圓
朝鮮側 二千五百萬圓

七四九

六、役員
資本並其内譯ハ常ニ朝鮮鴨綠江水力發電株式會社ト同一トス

理事 長 一名
理事 五名以内
監事 四名以内

本會社ノ役員ハ總テ朝鮮鴨綠江水力發電株式會社役員ト同一トス
七、政府ノ監督

- 1、左記事項ハ滿洲國政府ノ許認可ヲ受クルコトヲ要ス
- (一) 共同經營約定ノ締結及變更
- (二) 定款設定及變更
- (三) 他事業兼營及投資
- (四) 理事長及常務理事ノ他業從事
- (五) 役員ノ選任及解任、利益金ノ處分、社債ノ募集並合併及解散ノ決議
- (六) 事業計畫及資金計畫
- (七) 共同事業ノ計算

(八) 重要産業ノ讓渡及擔保權ノ設定

右各號ノ外滿洲國政府ハ監督上必要ナル命令ヲ發スルトコトヲ得

前二項ノ許認可並命令ヲナスニ方リテハ滿洲國政府ハ朝鮮總督府ニ豫メ協議ヲ遂クルモノトス

2、滿洲國政府及朝鮮總督府ハ第一方針ニ基ク發電事業ノ施設ニ對スル監督ニ付テハ其都度相互ニ協議ヲ遂クルモノトス

3、滿洲國政府及朝鮮總督府ハ各自國領域内ニ於ケル滿洲及鴨綠江水力發電株式會社ノ電氣事業ニ對シ公益上又ハ電力統制上必要ナル命令ヲナス場合ニハ相互ニ協議ヲ遂クルモノトス左ノ事項ニ付處分ヲナス場合亦同シ

(一) 電力供給契約ノ締結及變更

(二) 重要電氣工作物ノ施設及變更

八、事業經營方針

(一) 本會社ハ朝鮮鴨綠江水力發電株式會社ト共同シテ不取敢第一期計畫トシテ一應六十萬キロワツトノ發電所ノ建設ヲ目標トスルモ爾後ニ於ケル滿鮮電力需要ノ實情ニ依リ若干增加スルコトアリ又其後ノ情勢ニ適合スル如ク速ニ第二期以後ノ事業計畫ヲ定メ之ヲ實施スルモノトス

(二) 電力ノ供給

朝鮮鴨綠江水力發電株式會社ト共同シテ發生セル電力ハ滿洲國及朝鮮ニ對シ夫々其定ムル周波數ニ依リ原則トシテ二分ノ一宛同一條件ヲ以テ供給スルモノトス
前項ノ比率ハ滿洲國政府、朝鮮總督府協議ノ上之ヲ變更スルコトヲ得

(三) 會社ノ計畫

本會社ハ朝鮮鴨綠江水力發電株式會社ト資産及負債ヲ共有トシ其事業經營ニ依リ生シタル損益ハ均等ニ配分スルモノトス

備考

- 一、本會社設立ノ爲日滿兩國當該官憲間ニ鴨綠江及圖們江發電事業ニ關スル申合(覺書)ヲナスモノトス
- 二、滿洲及朝鮮鴨綠江水力發電株式會社相互間ニ水力發電事業共同經營ニ關スル約定ヲナスモノトス
- 三、本會社ノ配當ハ當分ノ内年六分以内トス

但開業ニ至ル迄ノ間拂込株金額ニ對シ年五分以内ノ利息配當ヲナスコトヲ得

鴨綠江及圖們江發電事業ニ關スル覺書

第一、日本國當該官憲ハ朝鮮鴨綠江水力發電株式會社(以下甲社ト稱ス)ニ對シ又滿洲國當該官憲ハ滿洲鴨綠江水力發電株式會社(以下乙社ト稱ス)ニ對シ鴨綠江及圖們江各本流ニ依ル右兩社ノ發電事業ノ共同經營ヲ許可スル爲夫々所要ノ措置ヲ執ルモノトス
第二、日滿兩國當該官憲カ夫々甲社又ハ乙社ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發セントスル場合ニハ豫メ協議ヲ遂ケルモノトス

甲社又ハ乙社ノ決議ノ取消及役員ノ解任並ニ左ノ各號ニ付認可又ハ許可ノ處分ヲナサントスル場合亦前項ニ同シ

- 一、共同經營約定ノ締結及變更
- 二、定款ノ設定及變更
- 三、他事業兼營及投資
- 四、社長(理事長)及常務取締役(常務理事)ノ他業從事
- 五、役員ノ選任及解任、利益金ノ處分、社債ノ募集並ニ合併及解散ノ決議
- 六、事業計畫及資金計畫
- 七、共同事業ノ計算
- 八、重要財産ノ讓渡及擔保權ノ設定
- 第三、日滿兩國當該官憲ハ第一ニ規定スル發電事業ノ施設ニ對スル監督ニ付テハ其都度豫メ協議ヲ遂ケルモノトス
- 第四、日滿兩國當該官憲ハ各自國領域内ニ於ケル甲乙兩社ノ電氣事業ニ對シ公益上又ハ電力統制上必要ナル命令ヲ發セントスル場合ニハ相互ニ協議ヲ遂ケルモノトス
- 左ノ各號ニ付認可又ハ許可ノ處分ヲ爲サントスル場合亦前項ニ同シ

- 一、電力供給契約ノ締結及變更
- 二、重要電氣工作物ノ施設及變更
- 第五 日滿兩國當該官憲ハ甲乙兩社ノ讓渡ヲ許可セザルモノトス
但特別ノ事情ニ依リ事業ノ讓渡ヲ許可スル必要アル場合ニハ相互ニ協議ヲ遂クルモノトス
- 第六 日滿兩國當該官憲ハ各自國領域内ニ於テ各社ニ對シ報告ヲ徴シ又ハ検査ヲ爲シタルトキハ遲滯
ナク相互ニ通報スルモノトス
- 第七 日本國當該官憲ハ甲社ヲシテ又滿洲國當該官憲ハ乙社ヲシテ左ノ措置ヲ執ラシムルモノトス
 - 一、甲乙兩社ノ資本金ハ常ニ同額タラシムルコト
 - 二、甲乙兩社ハ夫々其資本金ノ二分ノ一相當額ノ株式ヲ相手國側ノ株主ヲシテ所有セシムルコト
 - 三、甲乙兩社ノ各株主ヲシテ甲乙各社ノ株式ヲ同數宛所有セシムルコト
 - 四、甲社又ハ乙社ノ各役員ハ同時ニ夫々乙社又ハ甲社ノ同一役員タラシムルコト
 - 五、各社資産及負債ヲ兩社ノ共有タラシムルコト
 - 六、各社ノ事業經營ニ依リテ生シタル損益ハ各社ニ均等ニ配分スルコト
- 第八 甲乙兩社ノ發電事業ニ對スル許可期間ハ滿三十五年トス但シ日滿兩國當該官憲ハ各社ノ申請ニ
依リ協議ノ上之ヲ延長スルコトヲ得

第九 日滿兩國當該官憲ハ第一ニ規定スル甲乙兩社ノ發電事業ヨリ發生スル電力ヲ朝鮮及滿洲國ニ對
シ夫々其ノ定ムル周波數ニ依リ原則トシテ二分ノ一宛同一條件ヲ以テ供給セシムルモノトス但シ其
ノ比率ハ日滿當該官憲協議ノ上之ヲ變更スルヲ得ルモノトス

昭和十二年八月二十日京城ニ於テ

朝鮮總督府政務總監 大野 綠 一 郎

昭和十二年八月十八日新京ニ於テ

間島駐在日本國總領事 川 村 博

昭和十二年八月十九日安東ニ於テ

安東駐在日本國領事 瀧 山 靖 次 郎

康德四年八月十八日新京ニ於テ

滿洲國產業部大臣 呂 榮 寶

康德四年八月十九日新義州ニ於テ

新義州駐在滿洲國領事代理 谷 中 山

鴨綠江及圖們江發電事業ニ關スル覺書實施ニ關スル了解事項

一、鴨綠江及圖們江發電事業ニ關スル覺書(以下覺書ト稱ス)第二項第三號ノ他事業兼營及投資
トハ甲會社ニ付テハ同會社定款第二條第二項ノ事業經營及投資ヲ指稱シ乙會社ニ付テハ滿洲鴨綠江

水方發電株式會社法第二條第三項ノ附帶業務ノ經營ヲ指稱スルモノニシテ兩者ノ内容ハ全ク同一ナルモノトス

七五六

二、覺書第三ノ發電事業ノ施設トハ兩國ニ跨ル發電設備（發電所、堰堤、水路、貯水池等ヲ含ム）及其他發電事業ノ用ニ供スル設備ヲ指稱ス

前項ノ施設ニ付甲乙兩社ハ朝鮮總督府及滿洲國政府ニ對シ爲ス手續ハ當初ノ事業經營許可ノ申請ヲ除クノ外連名ヲ以テ之ヲ爲サシムルモノトス

三、覺書ニ依ル發電施設ノ建設又ハ修繕ニ要スル材料、機械及器具ニシテ朝鮮總督府又ハ滿洲國稅關長ノ特許若ハ指定シタル工事區域ニ於テ消費シ又ハ使用後返還スルモノニ對シテハ朝鮮總督府及滿洲國政府ニ於テ關稅其他ノ租稅ニ付非課稅ノ取扱ヲナスモノトス

昭和十二年八月三十日

康德四年八月十八日

朝鮮總督府通信局長 山田 忠 次
朝鮮總督府財務局長 林 繁 藏

滿洲國產業部長 岸 信 介
滿洲國經濟部次長 西村 洋 一 郎

第四款 滿洲國貿易統制方策

一、方 針

現行貿易統制法（第七回決議參照）ハ其目的作用狹少單純ニシテ現下ノ國際情勢ニ適應セザルモノナルヲ以テ之ヲ擴充シテ更ニ強力廣汎ナル貿易統制法ヲ制定シ以テ國際收支ノ改善、國內産業ノ保護助長、重要物資ノ供給並ニ價格ノ調節、通商ノ擁護促進ヲ圖ルト共ニ近時著シク強化セラレツアル日本貿易政策ノ動向ト歩調ヲ合セントス

二、要 綱

左ノ場合ニハ直接又ハ間接ニ輸出又ハ輸入ノ禁止又ハ制限ヲ行フ

(一) 重要物資ノ供給又ハ價格ヲ調節スル爲必要アル場合

(二) 國際收支ノ適合ヲ圖ル爲必要アル場合

(三) 特定國ノ輸出及輸入ノ均衡ヲ圖ル爲貿易ヲ調節セントスル場合

(四) 外國又ハ外國商社ノ措置ニ對應シテ通商又ハ産業ヲ擁護スル爲必要アル場合

三、措 置

(一) 貿易緊急統制法及之ニ基ク輸入制限ニ關スル件ヲ廢止ス

(二) 差當リ左ノ品目ニ付輸出及輸入ノ許可制度ヲ實施ス

七五七

- (イ) 輸出許可制度ヲ適用スルモノ
- (1) 玉 蜀 黍
- (2) 麻 子
- 以上何レモ日本ニ於ケル需要ノ増大ニ鑑ミ支那其他外國向輸出ヲ抑制シテ之ヲ日本ニ振向ケン
- トス
- (ロ) 輸入許可制限ヲ適用スルモノ
- (1) 米
- (2) 小麦及小麦粉
- 以上何レモ貿易緊急統制法ニ基キ現在輸入許可制度ヲ實施中ノモノニシテ主トシテ、國內産業保護ノ爲本法ニ於テモ引續許可制度ヲ適用セントス
- (3) 砂 糖
- (4) 葉煙草及製造煙草
- 以上何レモ國內生産ヲ促進スルト共ニ日本産品ヲ以テ外國輸入品ニ置換ヘンカ爲許可制度ヲ實施セントス
- (5) 曹 達 灰

右ハ滿洲曹達會社ノ設立ニ伴ヒ同社製品ヲ以テ國內需要ヲ充當シ得ルニ至レルヲ以テ外國品ノ壓迫ヲ防止シ同社ノ發達ヲ助長スル爲許可制度ヲ實施セントス

備考 貿易緊急統制法

第五款 滿洲國重工業確立問題

滿洲國ニ急速ニ重工業ヲ確立セシムル爲昭和十二年十月二十二日附ヲ以テ左記「滿洲國重工業確立要綱」閣議決定(滿洲國閣議決定ハ十月二十六日附内容日本側閣議ト同一ナルモ只十三項後段「事實上」ノ文句ナシ)ヲ見右決定ニ基キ滿洲重工業開發株式會社ヲ設立スルコトニ同年十二月十日第十六回日滿經濟共同委員會ノ決定アリタリ

滿洲國重工業確立要綱

方 針

現下内外ノ情勢ニ鑑ミ日滿一體トナリ重工業ヲ中心トシ急速ニ生産力ヲ擴充スルノ要緊切ナルヲ以テ概ネ左記要領ニ依リ滿洲産業開發計畫遂行ノ確保促進ヲ期シ滿洲ニ於ケル重工業ノ綜合的速急確立ヲ圖ル爲企業形態ヲ新ニ内外有力産業資本ノ進出ヲ誘致シ國家統制ノ下ニ經營技術ノ能力ヲ最モ有效ニ發揮セシメ以テ日滿兩國將來ノ經濟發展ニ資セントス

要 領

七六〇

- 一、日滿兩國政府援助ノ下ニ滿洲國ニ於ケル重工業ノ確立發展ヲ圖ル爲新ニ重工業ノ綜合的經營ヲ目的トスル強力ナル國策的會社ヲ設立スルモノトス
- 二、本會社ハ滿洲國政府及民間各半額出資トス
前項民間トハ差當リ日産（現在資本金二億二千五百萬圓株主數約五萬人）ヲ豫定ス
- 三、本會社ハ概ネ左記事業ニ對シ支配的ニ投資シ之カ經營ヲ指導ニ當ルモノトス
(イ) 鐵 鋼 業
輕金屬工業
(ハ) 重工業（自動車、飛行機等ノ製造工業）
(ニ) 石炭 鑛業
- 右ノ外本會社ハ産金、亞鉛、鉛及銅等ノ鑛業其他ノ事業ニ對シテモ附帶的ニ投資シ經營スルコトヲ得ルモノトス
- 四、滿洲國ハ前記(イ)乃至(ニ)ノ各事業ヲ營ム既存會社ヲシテ順次本會社ノ支配下ニ設立セシムルモノトス
滿鐵ノ前記關係諸事業ニ對スル出資ニ付テモ同社ト協定ノ上亦右ニ準シ處置セシムルモノトス
- 五、前記諸事業ノ開發經營ニ付テハ外國資本ノ參加ヲ認メ外國ノ技術設備ト共ニ努メテ外資ノ導入ヲ

圖ルモノトス

右ハ本案ノ要件トシテ特ニ重キヲ置クモノトス

- 六、前號ノ外國資本ハ各個ノ事業會社ニ付テハ其議決權カ半數ニ達セサル範圍ニ於テ本會社ニ付テハ議決權ナキ株式ニ限リ株式資本トシテ參加セシムルモノトス
社債其他貸付金ノ形式ニ依ルモノハ制限ナキモノトス
- 七、日滿一般資本ニ付テハ各個ノ事業會社ニ對シテモ適宜參加セシムルモノトス
- 八、日滿兩國政府ハ本會社ノ日産ヨリノ引續資産ノ活用及今後ノ所要事業資金ノ調達ニ付極力便宜援助ヲ與フルモノトス
- 九、滿洲國政府ハ日滿民間及外國側ノ本會社及各事業會社ヘノ出資ニ對シ適當ナル優遇方法ヲ講シ又日本政府モ當該株式等ノ國內市場ニ於ケル流通ヲモ容易ナラシムル等ノ資本ヲシテ安シテ對滿進出ヲナサシムル如クスルモノトス
- 一〇、鐵鋼業ニ對シテハ日鐵ト本會社ト相互的ニ資本參加ノ途ヲ講スルモノトス
- 一一、本會社ノ經營ハ日滿民間ノ有力ナル適任者ニ一任スルモノトス（適任者ニハ日産社長鮎川義介氏ヲ豫定ス）
- 一二、本會社及各事業會社ニ對シ滿洲國政府ハ適當ナル監督方法ヲ講スルモノトシ之ニ關シ滿洲國政

府ハ日本政府ト緊密ナル連繫ヲ保持スルモノトス
一三、日本政府ハ前記諸事業ノ生産品ニシテ日本領土内ニ輸入セラルルモノニ關シテハ關稅其他ノ關係ニ於テ事實上之ヲ外國品扱トセサルモノトス

「備考」

滿洲重工業開發會社設立要綱（昭和十二年十二月十日第一六回日滿共同委員會決定）

第一方 針

開發決定要綱ノ方針ト同一

第二要 領

- 一、滿洲國政府及日滿民間出資ノ下ニ新ニ滿洲重工業開發株式會社ヲ組織ス
- 二、本會社ハ滿洲國內ニ於テ概テ左記事業ニ對シ支配的ニ投資シ之ヲ經營ノ指導ニ當ルヲ目的トス
 - (イ) 鐵 鋼 業
 - (ロ) 輕 金 屬 工 業
 - (ハ) 自 動 車 製 造 業
 - (ニ) 航 空 機 製 造 業
 - (ホ) 石 炭 鑛 業
- 右ノ外本會社ハ金、亞鉛、鉛及銅等ノ鑛業其ノ他ノ事業ニ對シテモ附帶的ニ投資スルコトヲ得ルモノトス
- 三、本會社ノ資本金額ハ差當リ日本國通貨四億五千萬圓トシ滿洲國政府及日滿民間各半額出資トス
- 四、前號日滿民間出資ハ日本產業株式會社ノ資本（現在資本二億二千五百萬圓株主數五萬人餘）ヲ濫定ス

- 五、滿洲國政府ハ第二號ニ掲ケル諸事業ヲ營ム 既存會社ノ株主其ノ他ノ現物ヲ以テ出資ノ目的トナスコトヲ得ルモノトス
- 六、前記諸事業ノ開發經營ニ付テハ特ニ外國ノ資本及技術ノ導入ニ重點ヲ置クモノトス
- 七、滿洲國政府ハ日滿民間及外國資本ノ誘致ニ關シ適當ナル措置ヲ講ジ其ノ進出ヲ容易ナラシムルモノトス
- 八、日本國政府ハ本會社ノ日産ヨリノ引續資産ノ活用、事業資金ノ調達、日本市場ニ於ケル株式ノ流通並ニ關稅其ノ他ノ關係ニ於テ本會社ノ目的達成ニ付能ク限リ便宜援助ヲ與フルモノトス
- 九、本會社ノ役員ハ總裁一人、副總裁二人、理事五人以上、監事三人以上トシ總裁、副總裁ハ滿洲國政府之ヲ任命ス
- 一〇、滿洲國政府ハ本會社ノ經營ニ關シ概テ左記事項ニ付監督統制ヲ行フモノトス
 - (イ) 定 款 ノ 變 更
 - (ロ) 理 事 及 監 事 ノ 選 任 及 解 任
 - (ハ) 利 金 金 ノ 處 分
 - (ニ) 社 債 ノ 募 集
 - (ホ) 合 併、解 散 又 ハ 重 要 財 産 ノ 處 分
 - (ヘ) 公 益 上 又 ハ 統 制 上 必 要 ナ ル 事 項